

船井情報科学振興財団 留学報告書

2015年11月

荒木 淳

1. はじめに

私は、2012年8月よりカーネギーメロン大学コンピュータサイエンス学部言語技術研究所 (The Language Technologies Institute of the School of Computer Science at Carnegie Mellon University) の博士課程に在籍しています。今学期 (2015年秋学期) は博士課程4年目に入り、初めてティーチングアシスタント (TA) を担当しています。今回の報告書ではTAについて書きたいと思います。

2. ティーチングアシスタント

TAが卒業要件に入っているかどうかは、大学や課程によって様々なようです。私の学科ではTAは2回 (1コマの授業1学期分が1回) 担当することが要件になっています。CMUの場合、ノンネイティブスピーカーの学生がTAをするにはまずペンシルバニア州で定められた認定試験¹に合格する必要があります。この試験は会話テストなのですが、分野外の人に対して自分の専門分野の内容を分かりやすく説明することが問われます。試験結果は、Pass、Restricted I、Restricted II、Not Qualifiedの4段階で判定されます。Restricted IとRestricted IIの場合はTAとしてできることが限られたり、補講を受けたりする必要があります。私は博士課程2年目の始め (2013年11月) にこの試験を受けたのですが、めでたくPassという結果でした。

今学期はTAとしてDesign & Engineering of Intelligent Information Systemsというコースを担当しています。25人ほどのクラスで、私の他にもう一人TAがいます。このコースは昨年までと形式が大きく変わり、毎週宿題を課し、さらに自動採点システムを導入するようになりました。TAの主な仕事は宿題の作成と採点なのですが、この形式の変更が予想以上に作業量を増やし、特に学期の初めは時間を取られました。最近“flipping a class”というフレーズで表現されることが多いのですが、教授の「授業」自体はビデオ配信して学生に家で勉強してもらい、実際のクラスの間では宿題のような演習を行って、議論を通して授業内容についての理解を深めるという形式が増えてきています。このコースもこの形式を取っており、毎回のクラスでは宿題についての質問が多いです。これ以外に、オンライン掲示板のようなサイトで連絡や質疑応答をできる場²も提供しています。

3. おわりに

これまでにアメリカの大学で様々なコースを受けてきており、どのコースも宿題量が多く大変であることを体験してきました。今回初めてTAを経験することで、そのようなコースを設計する側や教える側はもっと大変だということを身を以て知りました。TAとして授業を担当することによって授業内容の理解が強化されたのが一つ大きな収穫でした。ティーチングから学ぶことも多々ありますが、博士学生にとってはやはり研究が重要です。博士論文も今学期から書き始めました。私は来学期以降にもう一回TAをする必要がありますが、研究とTAをうまく両立させていきたいと思っています。

¹ <https://www.cmu.edu/icc/testing/ITA/>

² <https://piazza.com>